

iPadを活用した女川高等学園手作り動画マニュアルの開発

宮城県立支援学校 女川高等学園 教諭 鈴木 大二郎
 キーワード：特別支援、動画作成、iPad

実践の概要

本校のサービスコースでは、ビルクリーニングの学習を行っている。iPadを利用して清掃の様子を撮影し、動くマニュアルを作成した。この動画の撮影や説明、撮影アシスタントを生徒に行わせることで、工夫する力や他者を思いやる気持ち、アイデアの創出につなげることが出来た。

1. 目的・目標

(1) 動画マニュアル作成の目的

ビルクリーニングの授業はほぼ毎日校舎内で行われており、清掃場所が変わると手順や準備物が違うために、生徒の中で混乱が生じていた。マニュアルもあったが、文字だけで書かれていたため生徒にはイメージしにくい物であった。「よりイメージし易いもの」「全校生徒がiPadを持っているという強みを活かす」と考えた結果、動画を用いたマニュアル作成に至った。

(2) 動画マニュアル作成時の留意点

通常であれば教員が主導し、マニュアルを作成するのが普通であるが、今回のマニュアル作成は、生徒が主体となって作成するという意識を指導を行った。生徒同士で話し合う場面を設定し、今まで学習してきた内容を共有させた。また、生徒自ら出演者やカメラマン、アシスタントといった役割になり、様々な清掃の動画を撮影した。さらに、その動画を使用し、iPadのアプリを活用して編集を行い、マニュアルを作成した。

2. 実践内容

2.1 生徒同士の情報共有

生徒8名を二つのグループに分けて話し合い活動を行った。話し合うテーマとしては、「作業前の準備」「作業工程」「動画撮影について」の三つである。また、話し合いをするときは、意見を否定するのではなく、肯定する

姿勢で話し合いに参加するように伝えた。

「準備物」や「作業工程」の話し合いでは、友達の意見で忘れていたことを思い出し、作業工程の順番を話し合うことで、なぜその順番になっているのか理由を知ることが出来ていた。

「動画撮影について」は、撮影時の役割や出演者のセリフを考えるように伝えた。生徒だけで決めさせると、自主的に出演者に立候補し、どのように出演者にセリフを言わせれば、分かりやすく伝えられるか積極的に様々な意見が出された。

2.2 動画の撮影

使用ICT機器：iPad

動画の撮影はiPadのカメラアプリで行い（写真1）、役割分担も生徒だけで話し合わせ決定したため、全員が



写真1 撮影の様子

意欲的に取り組んだ。しかし、撮影前にリハーサルを行い、撮影に臨んだが、実際に行くと緊張からか、手順を間違えたり、コメントを言えなかった。生徒は、何度も動画を撮影し、完成させようとしていたが、時間が掛かったため、編集で順序の入れ替えが出来たことを伝え、その後はスムーズに撮影を行うことができた。教員から「コメントをスムーズに言えるようにするにはどうする。」という問いかけに対して、「カンニングペーパーを準備して見せる。」という解決案が生徒より出された。それにより、アシスタント役の生徒は、出演者からカンニングペーパー

が見えるように工夫しながら掲示していた。

2.3 動画の編集とマニュアル作成

使用ICT機器：iPad

使用アプリ：iMovie Book Creator

今回はiPadで動画を撮影したが、従来であればビデオカメラで撮影するのではないだろうか。この動画をSDカード等の記録メディアに保存しパソコンで取り込み、動画編集ソフトで編集するという流れになる（写真2）。さらに、動画を生徒同士で共有するとなれば、E-mailを使って送ったり、クラウド領域にデータを保存したりしなければならず、生徒の操作が多くなり、それにともな

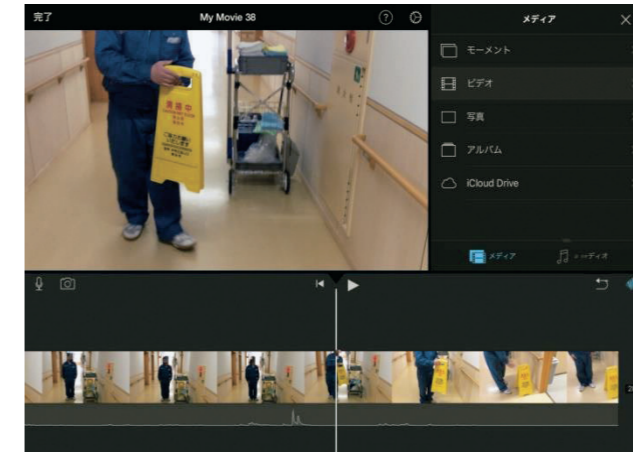


写真2 編集画面

い意欲の低下につながりかねない。しかし、iPadであれば、撮影、編集が端末だけで可能であり、さらに共有もAirdropを使うことでネットワーク環境が無くても、簡単にデータの共有ができた。共有が瞬時にできるということで、撮影は1台のiPad、編集は複数台で行うことが出来、時間の短縮につながった。

今回編集に使用したアプリは無料で配布されており、誰でも簡単に扱うことが出来るものであった。

3. 成果

3.1 生徒同士の情報共有

話し合うテーマを「作業前の準備」「作業工程」「動画撮影について」と設定することで、目的が明確になり、スムーズに意見交換が行われた。また、何回か経験している作業ということもあり、多くの意見を集約することもできた。さらに、まだやっていない撮影の場面についても、カメラの角度や道具を出すタイミングなど活発な意見交換が行われた。それらの活動の中で、友達の意見に耳を傾けることが苦手だった生徒も、清掃という作業が具体的にあることで、自分の間違いに気付き、意見を受け入れることが出来るようになった。教員の働き掛けは極力控えることで、生徒たちが実際に清掃作業をしている時に感じたことや、効率よく作業をするためにどのようにすれば良いかなど、肯定的な意見がたくさん出た。話し合った内容が動画という作品になることで生徒の意欲喚起にもつながった。

3.2 動画の撮影

清掃作業を行なっている様子を撮影する時は、カメラマンは、ホウキやモップを使って動き回る出演者に合わせて動きながら撮影しなければならない。後退しながら撮影することも多く、その様なときは、アシスタント役の生徒がカメラマンを安全に配慮しながら誘導している姿が見られた。この行為は、教師側からの働き掛けは無く、アシスタントを務めた生徒が、自ら気付いて行なった行動だった。友達が後退しながら撮影すると、転ぶかもしれないということを予測し、友達の困りに気付けたことは、他者を思いやる気持ちの育成につながったと感じている。

3.3 動画の編集とマニュアル作成

動画編集は教師が支援をしながら行なったが、ナレーションの挿入では、声の大きさやスピード、聴きやすい話し方に気を付けながら話すなど聞き手を意識した姿が見られた。また、生徒一人一人にも動画を送り、編集後、Book Creatorを使用してデジタル教科書のマニュアルを作成した。作品を作り上げたという達成感をそれぞれに感じさせることができたと感じている。教師の働きかけとしては、編集などの技術的な支援は必要となってくるが、制限はあまりかけずに、自由に作成させることで素晴らしい作品が生まれるのではないだろうか。

4. 今後に向けて

デジタル教材のメリットとしては、共有が簡単だということである。そして、簡単に誰でも作成することができるという点ではないだろうか。

特別支援教育では、視覚的な教材のほうが定着しやすい生徒が多いように感じている。しかし、動画教材などは、校内での使用だけにとどまっているケースが多いようにも感じる。デジタル教材というメリットを最大限に生かすためにも、インターネット上のクラウドにアップロードし、他の学校へ教材として提供し、さらに多くの教材を生徒と一緒に作成したいと考えている。

次に赤パットスプレーでの汚れ落とし方モップの使い方を説明します。



写真3 完成教材

	学習活動	子供活動	指導上の留意点
導入	・本時の内容を伝える。(動画撮影)	・iPadの操作方法を確認する。 ・役割を確認する。	・生徒たちが主体となって作成することを伝える。
展開	・清掃 ・清掃を撮影 ・撮影時のアシスタント	・清掃の手順を確認し、清掃を行う。 ・清掃の様子がわかりやすい位置で撮影を行う。 ・役割ごとに活動する。	・手順を間違えても、編集で解決できることを伝える。 ・友達が見てわかりやすい位置を考えさせる。
終結	・感想発表	・気になったことや気付いたことを発表し、次の撮影に活かす。	・友達の見解を尊重するよう言葉掛けを行う。

【本時の学習内容】

- 指導目標
 - ・生徒が様々な意見を発表し、肯定した姿で意見を受け入れることができる。
 - ・清掃方法がわかる動画を撮影することができる。
- 評価
 - ・他者を思いやりながら行動することができる。
 - ・順序だてられた清掃方法が提示され、分かりやすいマニュアルとなっている。
- 【指導略案】
- 単元指導計画（全体時間7時間）
 - (1) 生徒同士の話し合い活動（1時間）
 - (2) 清掃の様子の動画撮影（3時間）
 - (3) 動画の編集およびマニュアルの作成（2時間）
 - (4) マニュアルの視聴と感想発表（1時間）
- 本時の目標と展開 平成30年2月 生徒数2名
 - ・マニュアルを見る人のことを考えながら動画を撮影する。
 - ・カメラマンをサポートしながら動画を撮影する。